

# ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2023年11月14日放送分・宮町／宝蔵院】

毎月第1火曜日に放送していますが、今月は第2火曜日に放送。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 伊達政宗の時代に整備された四ッ谷用水の流れを追いかける旅。今年1月からお伝えして来て、約1年。いよいよ今回が、最終回です。
- 青葉区柏木1丁目の仙台柏木郵便局から、北六番丁を東にスタート。北六番丁は、青葉神社通(かつての奥州街道)を東に越えた所でカクンと下がって道幅が広がります。道の端を流れていた用水も、道の真ん中にきて幅が広がり「桜川」と呼ばれました。
- 上杉6丁目の交差点まで来ると、南西の角に「かみすぎやまはし」と書かれたコンクリート製の親柱が残されています。桜川＝四ッ谷用水が開渠として流れていた頃、これを渡るためにつけられた橋の痕跡です。再開発が進む地区で、このようなものが残っているのは面白いですね。

- そして宮町到着。宮町5丁目の交差点にある辻標「宮町／宝蔵院」はコーナーで紹介する40本目となります。宮町は水田地帯だった場所に17世紀半ば、仙台東照宮創建を機に参道として整備された町です。藩主在仙の2年に1度行なわれた祭礼「仙台祭」は、それはそれは盛大なお祭りだったそうです。宝蔵院は、その仙台東照宮を管理する仙岳院の塔頭(脇寺)の1つ。宝蔵院そのものは現存しませんが、アパートやマンション、橋などにその名前を残しています。



- 宮町5丁目交差点から東。梅田川にかかる宝蔵院橋のたもとに、四ッ谷用水本流の終着点を示す鉄製のゲートがあります。かつての流れはここまで。今は少し下流の宮城野区大楯の浄水場で処理され、現役の仙塩工業用水として利用されています。
- これで「四ッ谷用水を追う旅」は一応のフィナーレ。お付き合いありがとうございました。

〈文・佐々木淳吾〉

